

い。荷主が届けたい日数よりも1日遅くなる可能性はある」とする。

帯広貨物駅発の輸送量は年間約40万トン。このうち直行列車の輸送能力は約5割を占める。本州行きの直行列車は東京・隅田川駅と大阪・百済駅の大消費地向けで、ホクレン帯広支所は「到着までの日数が増えると販売

や、十勝産の野菜のブランド力にも影響する。産地でどれだけ良い作物を作っても良さが伝わらなくなる」（物流課）と危機感を語る。

管内のJA関係者は「食料基地からの荷物が滞る。路線存廃の問題は旅客だけでなく物流も大切に考えて議論してほしい」と求めている。

農産物認証に外部の目 第三者評価構築へ 十勝型GAP

2017年8月17日

管内24JAでつくるJAネットワーク十勝は今年度、農産物の認証規格「GAP（ギャップ）」の十勝版「十勝型GAP」について、第三者が認証する仕組みづくりを目指している。現在は農家が自ら生産工程をチェックしているが、外部の目を入れて農産物の安心・安全を担保し、国内外での流通の変化に対応する土台をつくる。

国内の主なGAPと特徴

高 ↑ 取 組 み 水 準 ↓ 低	グローバルGAP	商品回収 テストの 実施など	農場経営 管理 ・ 人権保護
	アジアGAP		
	JGAP		
	都道府県のGAP		
	JAグループのGAP		
	運 営	認証の 仕組み	オリパ 調達基準
グローバルGAP	フードプラス(ドイツ)	○	○
アジアGAP (IEJGAPアドバンス)	日本GAP協会	○	○
JGAP (IEJGAPベーシック)	日本GAP協会	○	○
都道府県のGAP	都道府県	△ 一部は認証	△ 一部は基準準拠
JAグループのGAP	JA、経済連	×	×

外部認証を取得した農産物を優先する考えで、政府も将来の輸出拡大に向けて認証取得を後押ししている。

こうした動きを受けて、十勝型GAPの事務局を務める十勝農協連では、農林水産省が策定したGAPのガイドラインに沿った第三者認証の構築を進めている。

同省や関係機関と認証制度の仕組みについて調整中で、来年度からの認証スタートを目指している。

十勝総合振興局が把握する認証取得する農場は、グローバルGAPが2戸、JGAPが15戸。五輪・パラリンピックでの食材利用は一時的な需要にとどまることや、認証による販売価格のメリットは少ないことから、グローバルGAPやJGAPの取得には費用対効果の面から慎重な見方がある。

しかし、既に国内外の農産物販売では条件になる取引もあり、認証取得の動きは進むとみられる。

十勝農協連では「公的な認証機関をどこにするかなどを検討中。GAPはこれからの流通の軸になっていくので、国際認証の取得に向けた準備、練習のための十勝型GAPにしたい」としている。

<GAP>

グッド・アグリカルチュラル・プラクティス（農業生産工程管理）の略。農産物の生産工程で、農薬や肥料の適正管理、異物混入の防止などの点検項目を定め、食品安全や環境保全の取り組みを進める。作業の効率化やコスト削減、農産物の高付加価値化を通して農業経営の質向上が期待される。欧州の「グローバルGAP」や日本独自の「JGAP」の他、都道府県単位やJAごとのGAPがある。

流通の新機軸に対応

十勝型GAPは2013年、管内でJAを通して農作物を出荷する畑作農家4000戸弱が参加してスタート。十勝の農作物の生産レベルを向上させる目的で、作物ごとの栽培の注意リストに沿って農家が自らチェックする。

ただ、十勝農業が一体になって取り組むアピール力はあるものの、第三者が評価する認証制度がないことが課題だった。食品に関する民間の国際認証「グローバルGAP」や、日本独自の「JGAP」は第三者認証を行っており、国内外での取引に活用されている。東京五輪・パラリンピック組織委員会は、選手村の食品調達基準に